２０２４年３月３０日(土)
北日本新聞掲載

北日本
（第3種郵便物認可）

フロントライン 富山けいざい

製薬企業の働き方改革

79

生産現場で多様化推進

医薬品業界では、メーカーの不適切製造に端を発する供給不足の解消や、海外展開を含む事業拡大に向け、人材確保が重要課題となっている。

時差出勤

ジャパンメディック（富山市横越、前田和也社長）は1月末から全社的に時差出勤制度を導入した。社員で構成する社内委員会がアンケートを行い、希望する出勤時間やその理由などを聞き取った。結果を受け、事前申請すれば、出勤時間を定時の午前8時半だけでなく、午前7～10時の間で選べるようにした。

申請は2月だけで100件近くに上った。「通勤ラッシュの時間を避けたい」「子どもの病院の受付時間に間に合うように早めに退社したい」など、理由はさまざまだ。

派遣社員らとの調整が必要な工場現場では、まだ制度の運用が始まっていないが、午前8時、8時半、9時の三つから選択する方向で製造ラインの割り振りなど検討を進めている。前田社長は「主体性を持って自分で選ぶことで、仕事への責任感が生まれる。ライフスタイルが多様化する中、それぞれの都合に寄り添うことも大切にしたい」と話す。

時差出勤制度を導入したジャパンメディック。服装や髪形のルールも緩和した＝富山市横越